

あっ んしおかせ 65号

発行日 令和5年11月1日
編集 男女共同参画情報紙編集スタッフ
(大畑由香・小林綾・長嶋真理子)
発行 焼津市 市民環境部 市民協働課
(〒425-8502 焼津市本町2-16-32)
☎054-626-1178
✉kyodo@city.yaizu.lg.jp

©かわいさちこ

男女共同参画社会とは、**世代や性別にかかわらず、誰もが自分らしく暮らせる社会**です。そのためにも、私たちの住む地域や身近な社会生活について、行政と市民が互いに知り、学び、考え、発信し合い、共に社会をつくって動かしていきましょう。

男女共同参画 の視点からみる 防災 ～消防団に新しい風を～

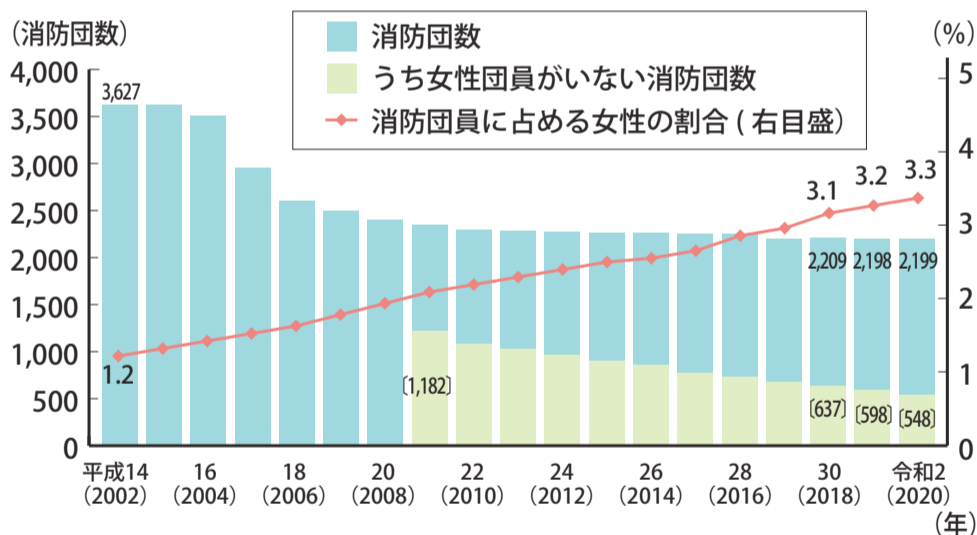
「消防団員」ときくと、あなたはどんな人を思い浮かべますか。男性を思い浮かべるかもしれません、女性では体力がなく務まらない、大変そうだと思う方もいるかもしれません。

頻発する災害の中では、思いもよらないさまざまな問題が生じることがあります。多様な視点を取り入れることで、問題の解決がスムーズになることがあります。

しかしながら、性別的な役割分担にとらわれてきた社会の中ではいまだなお、防災の分野においての代表者や役員は男性が中心になって構成されることが多く、重要な物事を決定する場において、女性の意見が反映されにくい状態が続いてきました。

東日本大震災では、男性が中心になって物資の配布を行い、女性に必要な物資がいきわたらず不便な思いをした女性が多かったそうです。

消防団数及び消防団員に占める女性の割合の推移



※このグラフは全国の消防団を示しています。(令和5年度版 男女共同参画白書より抜粋)

左のグラフからは全国の消防団の女性団員の数が増加してきていることがわかります。

多様な視点を取り入れていくことで組織をさらに活性化していく効果があります。誰もが積極的に意見や考えを発信していくこと、そんな場を作っていくことが大切です。

次のページでは
焼津市の消防団で
活動を行う女性を
紹介します。



男女共同参画・人権フォーラムinやいづ2023

ある幸せ、ない幸せ

～自分で決める暮らし方～

元朝日新聞記者 **稲垣 えみ子**さん講演会

一橋大学卒業後、朝日新聞社に入社。大阪本社社会部、週刊朝日編集部などを経て、論説委員、編集委員を務める。東日本大震災を機に始めた超節電生活を綴ったコラムが話題となり、「報道ステーション」「情熱大陸」等にも出演。50歳で朝日新聞社を退社し、夫なし、子なし、冷蔵庫なしの“ハッピーに閉じていく人生”を模索中。



日時 令和5年12月9日(土)
13:30～15:00 講演会(開場13:00)
会場 焼津文化会館 小ホール
(焼津市三ヶ名1550番地) 駐車場あり
定員 300名(先着順)

入場無料
要申込

申込方法 12月6日(水)正午までに右記QRコードよりお申し込みください。(電話も可)



申込・問合せ先 焼津市 市民環境部
■市民協働課
☎054-626-1178 kyodo@city.yaizu.lg.jp
■くらし安全課
☎054-626-1131 kurashianzen@city.yaizu.lg.jp

ひとつ「働き方」を変えてみよう!
カエル! ジャパン
Changel JPN

「仕事と生活の調和」の実現に向けて、ひとつ「働き方」をカエてみませんか?

詳細は →

